

平成 22 年度全国公立学校教頭会研究大会旭川大会に参加して

せたな町立若松小学校 佐々木 朗

期日 平成 22 年 7 月 28 日 (水)、29 日 (木)、30 日 (金)

日程 1 日目 旭川大雪アリーナ 全体シンポジウム

2 日目 トーヨーホテル 第 5 分科会参加

3 日目 (欠席) 旭川大雪アリーナ 講演 旭山動物園元園長 小菅正夫氏

1. はじめに

北海道で全国大会が開催されるというなかなかないチャンスで、学校長も参加を勧めてください、せたな町教頭会では、14 名中 11 名が参加することができ、私ももちろん初めてであったが、参加させていただいた。

札幌で 1 泊し、せたなの仲間と合流、そして次の日の朝に旭川に向かいました。

2. 大雪アリーナ

雨上がりで、むんむんとした中、「学校の先生方だ。」と一目でわかるようなクールビズ集団がたくさん玄関周辺にいた。会場はエアコンこそ効いているのであろうが、1 階席、2 階席もほぼ満員の中では、すずしい感覚は全くなかった。

開会式の後のアトラクションで、地元の中学校、高等学校の吹奏楽が演奏され、それが実に決まっていて、暑さを少し忘れさせてくれた。中学校の吹奏楽部長さんが、「先生方の青春の曲のメドレーです。」と言って松田聖子の曲を何曲か演奏してくれたのも良かった。「あいつらは平成生まれなんだなあ。」とあたり前のことをうらやましく思った。

午後からはシンポジウムで、ファイターズの社長さんをはじめ、3 人のパネリストが搭乗した。暑さと眠さで、覚えていることもとびとびであるが、感じたことをまとめる。

ファイターズは、東京ドームから、運営資金が少なくすむ他の地域を探していた。札幌ドームができて、そこに移転することになったが、不安でいっぱいだった。その頃、北海道のファイターズのファンの割合は非常に低かったのである。心に残ったのは、お客様第一主義ということである。ファンを大切にすることを徹底した。ジャイアンツにいた選手がファイターズに移籍して、一年分のサインを一日で書いたと言ったそうだ。選手が学校に出向いての講演、野球教室、試合前後のファンとの交流など、他球団ではない取り組みをしている。次に新しい企画を若い社員たちにさせ、できるものはどんどん実行させていった。恋人シート、BB の企画、物品販売など様々である。それもその企画で人数がいる時は、部署を超えて、グループを作り、その企画を応援していくということである。単なる縦割りの仕事にはしないということである。それと人事交流も半年ごとに行い、あらゆる仕事を体験させるそうである。それと、心に残ったのは、質問で「新城選手が引

退を決意した時はショックでしたか。」という質問に対して、「うちはスター選手に頼らない。それと試合結果に一喜一憂しない経営をしている。」と答えました。なるほど。

学校現場にあてはめても、いろんなことがあてはまるなあと思いました。一つは、ファンサービス第一主義は、学校は子どもたちのためにあるということになります。となると、やはり、勉強を教えるあらゆることが、「子どもたちのためになっているか。」ということ第一に考えることが大切だということです。それと、仕事も自分の分掌や担当だけではなく、まわりが困っていたら声をかけてあげるといいし、手伝ってほしいときは、周りに気軽に声をかけられるような職場作りが大切かなと思います。それと、スター選手にたよらないということでは、もちろん卓越した教育技術や特技のある先生がいるのはいいのだけれども、学校全体として、信頼ある学校作りを進めていくことが大切だと感じました。ファイターズがちょっと身近に感じたフォーラムでした。

2. トーヨーホテルでの分科会

2日目は、分科会。旭川市内の9つの分科会に分かれての討議となりました。第5分科会の名簿上の人数は326名。全体で3本の提言が行われた後、40ほどの小グループ（1グループ8名ぐらい）に分かれてグループ討議となります。結婚式をやるような大きなホールですが、40ものグループを作って、話し合いをするのですから、わいわいがやがやもいいところですよ。それでも、さまざまのところから集まった先生方のグループなので、なるほどなあと思うことばかりで、とても勉強になりました。私たちのグループは、札幌、恵庭、網走、東京、群馬、茨城、大分と、せたなの私でした。

まず、すごいなあと思ったのは、内地は、縦系列の指示系統がびしっとしていることです。校長、副校長、主幹教諭、主任の上下関係がはっきりしていることです。それと、教員評価制度もかなり厳しいようで、露骨に人事にも跳ね返ってくるようです。いろんなことをお話ししている間にすっかりみんな仲良くなれました。いつか道外に視察に行くようなことがあったら、訪ねてみたいなあと思いました。

3. その他

教頭会の間、せたなは大雨。新聞にも出た程です。新聞を見ながら、「早く帰ろうっか。」ということになり、小倉山の先生、玉川の先生と共に、3日目の講演は失礼して、帰ることにしました。

3日目の朝、大雪アリーナのすぐ近くに三浦綾子さんの氷点の舞台となった見本林があるということで、私は朝、マラソンで行ってきたことを話したら、みんな行きたいと言うことで、そちらを経由して帰りました。閑静な住宅街を抜けると林になっていて、散策路がついていました。しばらく進むと美瑛川のほとりにでました。私も氷点は読んでいたので、ああここがそうだったんだと思いはせることができました。静かでもとてもすてきな場所です。

旭川は、このようにピンスポットの場所しか訪れることができませんでした。でもせたなの仲間と有名な旭川ラーメンを毎晩食べることができ、交流できたことも楽しい思い出です。

また、機会があったら、全国の先生方の集まるような研修会に参加してみたいと思いました。